

平成 30 年度 第 4 回  
 第三者評価検証委員会会議記録

確 認 欄	教育長	教育次長	係 長	係

日 時	平成 31 年 2 月 25 日 (月) 13 時 30 分～16 時 30 分		作成者 事務局 総務教育係 小林義尚
場 所	信濃町役場 公室	配付資料	会議次第、信濃小中学校評価検証結果の報告(案)、 学校プロジェクト最終答申、信濃小中学校に関する 評価検証結果の報告(案)、平成 30 年度信濃町立信 濃小中学校学校評価及び関係者評価(案)、信州型 ユニバーサルデザイン推進、前回会議録
出 席 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤職務代理</li> <li>・齋藤委員長、近藤副委員長、加藤委員、藤倉委員</li> <li>・勝野副校長、松木教育次長、小林総務教育係長</li> </ul>		
欠 席 者	なし		
内 容	検討内容	検討結果	
協 議 事 項	1. 開 会  2. 挨拶  3. 協 議 (1) 信濃小中学校 評価検証結果 の報告(案) について	事務局：松木教育次長  佐藤職務代理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長が療養休暇のため代わって挨拶。これまで3回の検証結果のまとめをお願いしたい。</li> <li>・限られた回数の中で検証を行っていただいたので、全てを今回で終えることは難しいと思う。場合によっては次年度も継続してほしい。</li> </ul> 齋藤委員長 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回が最終になるのでこれまでの検証の結果をまとめることになる。</li> <li>・会議を次第のとおり進行する。</li> <li>・(1)と(2)は関連しているので一緒に説明いただき、報告書の出し方についても協議をお願いしたい。</li> </ul> 事務局：小林総務教育係長 ◆信濃小中学校評価検証結果の報告(案)【資料1】の説明 ① (1)委員構成 (2)検証委員会の経過 (3)評価点として出された意見 (4)課題点として出された意見 (5)現状のまとめ (6)現状のまとめ概念図	

- (7)評価検証結果
- (8)課題を解決するための4つの提案
- (9)提案の具体的スケジュール
- (10)信濃小中学校の Re:フォーム案
- (11)学びと育ちプロジェクト補助金
- (12)RTI モデルとユニバーサルデザインによる教育実践
- (13)スクールバス通学の弾力的運用
- (14)教育課程編成プロジェクト
- (15)フリーWI-WI 大作戦
- (16)日課と学校行事の見直し

②3回の検証と教職員との懇談から検証結果の案を作成した。

③課題解決の4つの提案と具体的な解決までを明示したものを報告書として検証結果と一緒に公表したい。

【質疑・意見】

委員 ⇒ 学校支援の役割を明確化した「しなの学校応援団」についての表記があるが、どんな団体でどのような役割を持たせているのか分からない。

事務局 ⇒ 「しなの学校応援団」は、人材バンクのようにクラブ活動の講師を依頼する登録名簿になっている。

将来的には、スクールサポーターのような役割で地域コミュニティーの一つになればと考えている。そのことが分かるよう追記する。

委員 ⇒ 信濃小中学校の「現状のまとめ」にある6年生の学力の表記は誤解を生んでしまう恐れがあるので見直したらどうか。

事務局 ⇒ 表記の仕方を検討する。

委員 ⇒ 信濃小中学校の課題点にある「優しい児童生徒」が目標のように勘違いしてしまう。これからの時代、優しいだけでは社会を生きていけないので、表記を見直したらどうか。

事務局 ⇒ 「信濃町が好きな児童生徒が多い」と一緒に表記する。

学校：勝野副校長

◆教育課程編成プロジェクト最終答申の説明

- ①「(1)年間行事計画
- (2)運動会のあり方
- (3)働き方改革
- (4)特別支援教育の充実
- (5)支援員のスタイル
- (6)しなのスタイルの見直し
- (7)ふるさと学習の充実
- (8)研究のあり方
- (9)同僚性の高め方
- (10)児童生徒会のあり方

(11)部活動運営」

②全職員が指定されたプロジェクトに所属して答申書を作成した。その内容は職員会議内で発表をして、教職員間で情報共有を行った。

【質疑・意見】

委員 ⇒ 教育課程編成プロジェクトの答申結果をどのように反映するのか。

副校長 ⇒ プロジェクトの答申結果は、できるところから改善したいと考えている。

まず平成31年度の学校計画に反映できる部分は反映させる。

委員 ⇒ PDCAサイクルによる校内での取り組みとして、教育課程編成プロジェクトを継続してほしい。

委員 ⇒ 運動会のあり方の答申には曜日についての意見がない。

地域の方に義務教育学校の良さを知ってもらうために土日に開催するよう強くお願いしたい。

委員 ⇒ 「(4)特別支援教育の充実」にある「個別の支援計画書」の書式改正と事務局で作成した報告書の(12)RTIモデルによる教育実践の内容に齟齬があるように感じる。

学校として特別支援教育どのように考えているのか。

副校長 ⇒ 特別支援学級の在籍率の高さに課題を感じている。

RTIモデルの教育実践の考え方には賛成している。

「信州型ユニバーサルデザイン」は現時点で不透明な部分が多い。

「個別の支援計画書の書式改正を具体的にどのようにするかは、今後加藤委員と相談しながら進めたい。

委員 ⇒ 「(5)支援員のスタイル」の答申内容を全教職員が共有して特別支援教育に生かせたら素晴らしいと思う。

(3) その他について

副校長 ⇒ 支援員のリーダーを任命して、リーダーを中心に動くようにする。

委員 ⇒ しなのスタイルの見直しで「話を最後まで聞く」とあるが、これからの時代は聴く力が重要になるので大変良い方向性だと思う。

委員 ⇒ 「(7)ふるさと学習の充実」で各学年での重点目標が「願う姿」として書かれているが、「前期課程は地域で学ぶ、後期課程は自ら学ぶ」くらいの大きな枠の目標とした方が取り組みやすいのではないか。

委員 ⇒ 「実践を定型にしない」としているが、最低限度のプログラムがあった方が取り組みやすいのではないか。

副校長 ⇒ 教員によって得意不得意の分野がある。無理にカリキュラムやプログラムがあるより自由度が高い方が取り組みやすい。

委員 ⇒ 同僚性の高め方が一番課題だと思っている。楽しいだけのレクリエーションでは同僚性が高まらない。困難な仕事を一緒に乗り換えた時に、同僚性は生まれるものだと思う。

事務局：小林総務教育係長

◆信濃小中学校に関する評価検証結果の報告（案）【資料2】の説明

	4. 閉 会	<p>①パワーポイントの(7)検証結果の報告と同内容でA4用紙にまとめて報告書を作成し一緒に提出するよう提案。【全委員承認】</p> <p>②今回の委員会で指摘のあった字句等の修正をした後、資料を各委員へ郵送し、各委員からの朱書き修正を受け、それらを修正したものを最終的に報告書とする。年度内に報告書が完成をするよう進めたい。</p> <p>事務局：小林総務教育係長</p> <p>◆来年度以降の本委員会について提案</p> <p>①パワーポイントの検証結果の報告(9)提案の具体的スケジュールにある平成31年度に継続検討すべき事項があるので、4名の委員には引き続き評価検証の協力をお願いしたい。</p> <p>②平成31年度は全体で3回を予定している。</p> <p>事務局：松木教育次長</p>
今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員は郵送された報告書資料の内容を確認し、意見など加筆したものを3月14日までに返送。</li> <li>・委員の意見を週酌した報告書案を3月18日に委員長が確認</li> <li>・議会全員協議会で報告（最終版完成であれば紙で配付し、未定稿であればパワーポイントで報告）</li> <li>・最終版を4月1日以降に町のホームページで公表</li> </ul>	
次回会議日時	平成31年9月24日（火）第1回計画	